



























































ガッソ石



ウナリガナシ石 (女神石)

「島建石」伝説

大昔小湊に人が住んでいないころ、イイマランコウという王子と王女の兄妹が箱舟に乗って大広（イスビラ）に流れ着いた。二人は住む所を求めて目の前にある前山に王子は大きな石を、王女は小さな石を担いで登った。二人の兄妹は山頂でその石に立って島を見下ろし、原の真ん中を見定めてそこに島を建てて暮らすようになった。それ以来子孫が増えて小湊の集落が始まったと言われ、現在その石が島建石と呼ばれている。その巨石は前山の通称ホウゴの標高

190ほどの所に大小2つの石が上下にある。

石について集落の伝説では男女二人の神様が海岸から運んだと言われ、上にある男神（イイリガミ）が運んだ石を男神石（イイリガナシイシ）、下にある女神（ウナリガミ）が運んだ石を女神石（ウナリガナシイシ）という。

「隣 重俊氏著 小湊むんがたりより」

















































